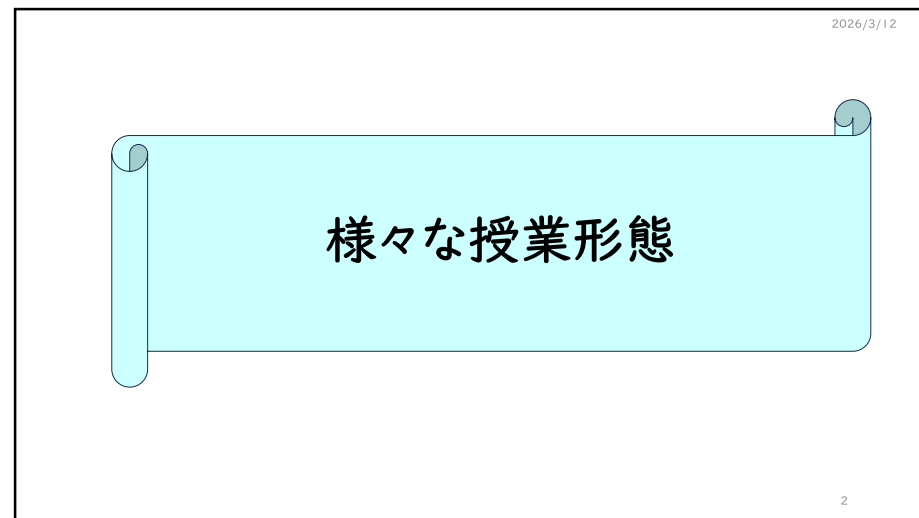
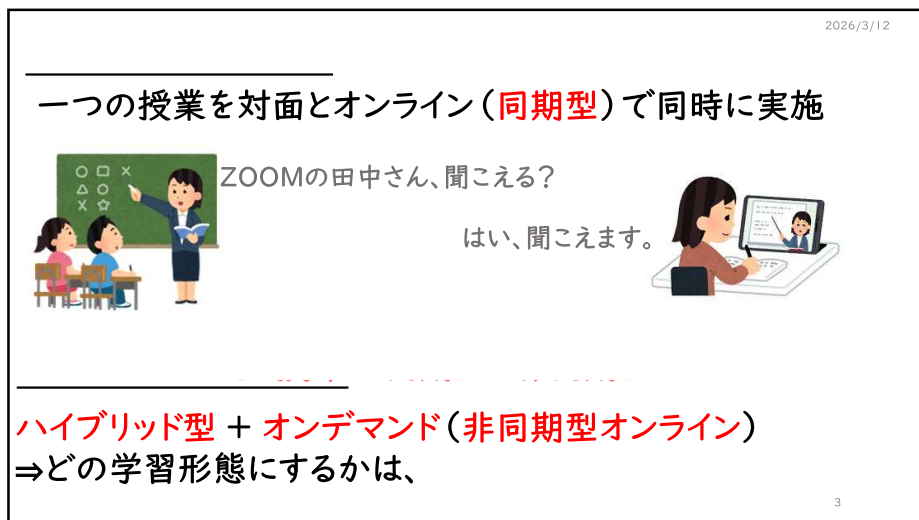


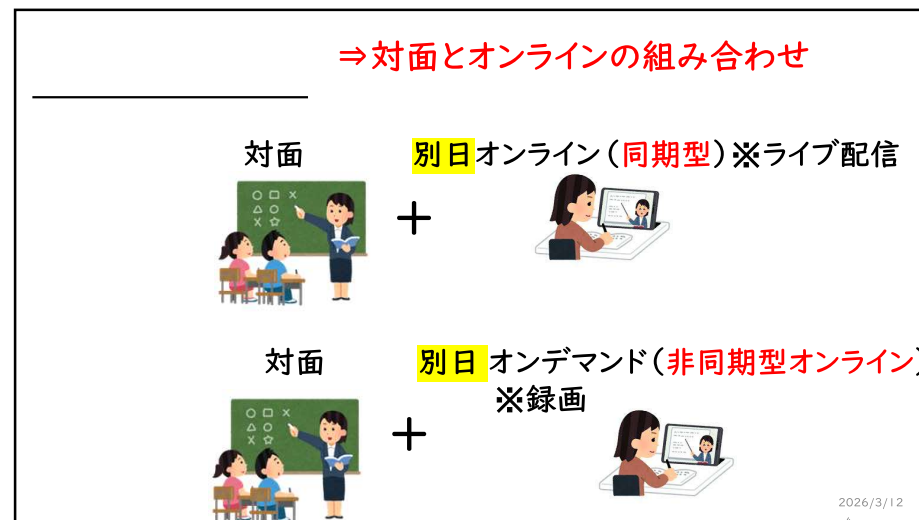
1



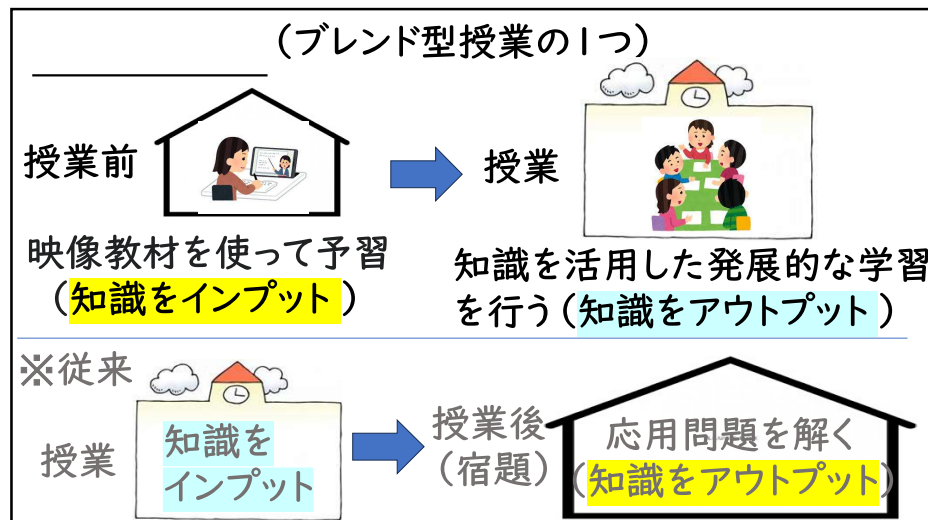
2



3



4



5



6

コースデザインとは

- ・ 学習者について情報を集め、学習内容や評価の仕方などを決める

コースデザインの理念

「日本語について何を知っているか」ではなく、
を達成すること

2026/3/12

7

コースデザインの流れ

- ① ニーズ調査、② レディネス調査
- ↓
- ③ プレースメント・テスト
- ↓
- ④ (目標言語調査・目標言語使用調査)
- ↓
- ⑤ シラバス・デザイン
- ↓
- ⑥ カリキュラム・デザイン
- ↓
- ⑦ 授業実施
- ↓
- ⑧ 評価 (試験)
- ↓
- ⑨ 振り返り

2026/3/12

8

8

2026/3/12

①

学習者の **学習目的**（目標言語を使用する場面）、
到達目標、**必要な技能** など



②

(学習者に関する調査)

国籍、**母語**、**現在の日本語のレベル**、**日本語の学習歴**、
外国語の学習歴、**学習予定期間** など

9

9

2026/3/12

③ プレースメント・テスト

()

例) 一学期で扱う範囲

初級 I クラス: 1課~19課(みんな日 I)

初級 II クラス: 20課~40課(みんな日 I、II)

中級 I クラス: 41課~50課(みんな日 II)、JLPT N3



10

10

2026/3/12

④ 目標言語調査 () を調査)

⇒ 目標言語が使われている現場で言語データを収集し、分析する
(語彙、敬語の必要性など)

目標言語使用調査 () を調査)

⇒ **非母語話者**がどのような目標言語を使用しているか調査
(使用状況、誤用の現れ方、コミュニケーションストラテジーなど)

11

11

2026/3/12

⑤ シラバス・デザイン

学生のレベルや目的に合わせて、**シラバス**を作成
()

⇒

例) 大学進学・就職を目指すクラス
→ 文法を体系的に教える(文法シラバス)

就労者(日本で働いている人たち)のクラス
→ 会話を重視(タスクシラバス)

12

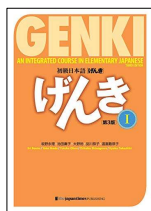
12

【シラバスの種類(構成内容で分けた場合)】

2026/3/12

⇒ **文法項目**や**句型**で構成

易しい項目から難しい項目へ「 」に進む



by Amazon

13

13

⇒ **ある話題**に関して必要な表現が学べる

項目は「文化」「日本の社会」「日本の教育」など

2026/3/12



by Amazon

14

14

⇒ **ある場面**に関する語彙、表現、会話例を学ぶ

項目は「空港で」「郵便局で」「市役所で」「スーパーで」など

2026/3/12



by Amazon

15

15

⇒ **4技能の能力を個別に伸ばす**

「書く技能」なら「手紙を書く」「ビジネスレターを書く」など

2026/3/12



by Amazon

16

16

2026/3/12

- ⇒ **課題の達成を目的とする**
項目は「買い物をする」「旅行の計画を立てる」など

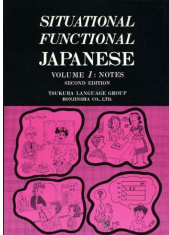



by Amazon 17

17

2026/3/12

- ⇒ **概念ごと**に構成
項目は「時間」「頻度」「場所」「量」「速度」など
- ⇒ **言葉の機能(働き)ごと**に構成
項目は「依頼」「提案」「感謝」「拒否」「禁止」など



by Amazon 18

18

2026/3/12

【シラバスの種類(確定時期で分けた場合)】

- ⇒ コース**開始前**に決定する
- ⇒ コースが**終わるまで**確定しない
(学習者の希望に合わせて学習項目を決めるため)
- ⇒ コース開始時に大まかに作成し、
学習の進捗具合や学習者の希望に合わせて**変更する**

19

19

2026/3/12

⑥カリキュラム・デザイン

学生の情報や学習項目をもとに決定する

- (期間、週何時間)
- を決めて、時間割りを作成
- 評価する時期(試験をいつ行うか)
- クラス編成
- 担当する教師
- (クラスの生徒情報をもとに決める)

20

20

2026/3/12

(/ 隠れたカリキュラム)

⇒教育機関の校風、価値観に基づく行動や作法に関わるカリキュラム

例)・授業前に「起立、よろしくお願いします。」と言わせる

・多様性に配慮した授業作りをすること

22

22

2026/3/12

⑦授業実施

⇒複数の教師が同じ生徒・クラスを教える

引継ぎにより、他の教師と情報共有

(授業の進捗、クラスの雰囲気など)

(出欠を記録して、出席率を把握)

23

23

2026/3/12

⑧評価

⇒小テスト、中間・期末
(結果は、にもなる)

⇒外部機関が作成した、実力を測るテスト 例) JLPT、EJU

・出席率、授業態度、宿題をやったかなど、日々の評価

➡ これらを記録して、まとめたもの =

24

24

2026/3/12

⑨振り返り

⇒常に自分の授業を振り返り、成長していく教師

どうやって振り返る?

を行う

を活用

(教案、シラバス、授業記録などをまとめたもの)

25

25

アクション・リサーチ

2026/3/12

- ① 教室内での問題点を見つけ、解決策を考える(=)
- ② それを に移す
- ③ 問題が解決されたかを考える(=)
- ④ 自分の行動を省みる(=)

26

26

指導法

2026/3/12



29

29

<話し方>

2026/3/12

⇒母語話者が**外国人と話すとき**、
わかりやすいように配慮した話し方

<特徴> ゆっくり、単語の羅列、**助詞の省略**



30

⇒**教師が学習者と話すとき**の独特な話し方

<特徴>

- ・ ゆっくり、はっきり
- ・ **学習者が習った範囲の語彙、文法だけを使う**
- ・ |文が短い
- ・ ポーズが頻繁で長い



31

31

<教室活動> ▼ 聞く&書く

2026/3/12

-
- ⇒ 単語や文を聞き取って書く
-
- ⇒ 文のディクテーションをして、その続きを考えて書く

48

48

<教室活動> ▼ 話す

2026/3/12

- Show&Tell / ストーリー・テリング
- スピーチ
- 会話練習 (インタビュータスク、ロールプレイなど)
- ディスカッション、ディベート



49

49

<教室活動> ▼ 読む

2026/3/12

-
- ① (授業で長めの文を読むとき)
- ② (JLPT 読解「情報検索」)
-
- ⇒ 単語や文の意味などひとつひとつに注目しながら読む
例) 「中級から学ぶ日本語」

50

50

<教室活動> ▼ 書く

2026/3/12

文字の指導

- ひらがな・カタカナ ⇒ ディクテーションなど
- 漢字 ⇒ 読み方、書き順、部首、漢字の意味、熟語など

初級

中級

上級

53

53

文章の指導

2026/3/12

<初級> 作文、原稿用紙の使い方

- ・
- ・



<中級以上> レポート、小論文、研究計画書、論文など

- ・
- ・
- ・

55

55

<初級>

2026/3/12

- ・

⇒ **特定の語彙や文型を使って**文を書かせる
が目的

例) タイトル「私の町」

「私の町は、〇〇(国)の 〇〇(町)です。」

「〇〇はきれいな/しずかな/たのしい町です。」

「〇〇や〇〇が有名です。」

56

56

<初級>

2026/3/12

- ・

: **まとまった文章**を書く練習

①語彙や文型を導入した後、

②学習者は、

③最後に、

例) みなさんの町はどこですか?

どんな町ですか?

何が有名ですか?

57

57

<中級以上>

2026/3/12

- ・

⇒

を指導

例) 序論・本論・結論、前置き・本文・結語(ビジネス文書)など

- ・

⇒文章を**書く過程を重視し、何度も書き直す**(=)

構想、文章化、推敲の各段階で添削

58

58

<中級以上> 2026/3/12

・

⇒ の書き方を指導

(を読めば、主張がわかる構成)

※1段落の構成

①段落の初め(主張):

②中心文に関わる具体例など説明:

③段落の終わり(段落全体のまとめ):

59

<協働学習/ピア・ラーニングでの活動> ▼読む 2026/3/12

⇒他の学習者と協力して、一緒に読む

①

⇒ペアやグループで同じテキストを読み、内容について話し合う

②

(を利用した活動)

60

60

ジグソー・リーディング 2026/3/12

<2つのやり方>

● テキストを読んで、

情報交換をする

● 1つのテキストが、

⇒与えられた段落(何段落かは知らない)を読んだ後、

他の学習者と協力して、文章全体の構成を考える

61

61

2026/3/12

※手元の文章が何段落か知らない


62

62

2026/3/12

<協働学習／ピア・ラーニングでの活動> ▼書く

⇒ペアやグループで、
文法や内容について話し合いながら、



63

63

2026/3/12

<協働学習／ピア・ラーニングでの活動> ▼聞く&書く

⇒メモを取りながら文章を聞き、その後、
他の学習者と協力して、文章を復元する

<特徴> ・ が、統合的に行える

- ・コミュニケーション活動を通じて、文法に注目させる

⇒

64

64

2026/3/12

ディクトグロスの特徴

- ① 教師が読み上げる ⇒
- ② 、メモを頼りに ⇒
- ③ 元の文章を見ながら修正 ⇒
- ④ 教師が

67


67

2026/3/12

自分の学習を自分で管理し、自分の学習に責任を持つ

目標設定 ⇒ 計画 ⇒ 実行 ⇒ 評価 を行う

(使う)



※自己評価の仕方⇒ の活用

68

68

学習者や教師が学習や教育に対して持っている信念

例)・単語は書いて覚えるべきだ

- ・ネイティブ並みの正確さを学習者に求めるべきだ
- ・外国語を学ぶなら、文法シラバスのテキストを使うべきだ
- ・授業では必ず協働学習／ピアラーニングを取り入れるべきだ

日本語教育人材に求められる資質・能力の整理

出典・参考:文化庁「日本語教育人材に求められる資質・能力の整理(案)」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/nihongo/nihongo_81/pdf/r1397469_06.pdf

出典・参考:文化庁「日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ」

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001392240.pdf>

求められる基本的な資質・能力

- ◎
- ◎コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶという日本語教育の特性を理解していること

専門人材として求められる資質・能力

- ①
- ②
- ③ 豊かな国際的感覚と人間性
- ④ 自らの職業についての**自覚と情熱**を有し、
- ⑤ 日本語教育を通じた人間の成長と発達に対する深い理解と関心

日本語教育人材 < 段階 >

養成

日本語教師を目指し、**日本語教師養成課程等で学ぶ者**

初任

日本語教師養成段階を修了した者で、それぞれの活動分野に新たに携わる者

※当該活動分野において、**程度の日本語教育歴**にある者

中堅

日本語教師として初級から上級までの技能別指導を含む十分な経験(2,400単位時間程度)を有する者

※当該活動分野において、**程度の日本語教育歴**にある者

<養成段階で求められる資質・能力の整理>

【知識】 ①言語の構造
 ②学習者の背景やニーズ・文化の違いを教育に活かす
 ③自らの授業を分析し授業改善
 ④外国人施策や日本語教育に関する知識

【技能】 ①教育実践のためのスキル（コミュニケーション能力、自己分析による）
 ②学習者の学ぶ力を促進するスキル
 ③ を育てるスキル（教室内外の者と学習者をつなぎ、社会参加を促進）

【態度】 ①自己研鑽を続ける
 ②学習者理解を重視し、自身を見直す態度
 ③文化や価値観の多様性を尊重し、日本の伝統も大切にす態度

75

<日本語指導者【初任】（活動分野別）に求められる資質・能力の整理>

●留学生

【知識】 留学生支援に必要な日本語指導、試験対策、 (PBL) など

【技能】 学習者に応じた指導計画の立案、 クラス運営、

【態度】 多様な関係者と連携し、 し、進路選択にも関心を持つ

79

●生活者としての外国人

【知識】 ①地域の外国人の背景・状況・特徴の理解
 ②背景などに応じて、 を理解
 ③ の違いを理解
 ④指導者・補助者の役割や連携体制についての理解
 ⑤地域の教育リソースを活用

【技能】 学習者に応じた指導計画の立案、 地域の教育リソースを活用、 など

【態度】 ① を育てる
 ② を育てる
 ③多様な関係者と連携し、日本語教育は生活者としての外国人が ことを意識する

81

岡山県総社市の日本語教室の例

●日本語教師 (5~7名:毎回2名) 有資格者, 教授経験豊富

●日本語学習者 地域に居住する外国人住民(成人) ゼロレベル 母語は限定しない

●日本語学習サポーター(日本語学習支援者) 地域居住のボランティア日本人住民 「人材育成研修」の一環として教室に参加 日本語のモデル発話, ペア練習の相手, ロールプレイの見本, レベル差の大きい学習者の補助等を行う

●総社市役所職員 総社市日本語教育事業の事務局 (国際・交流推進係)

●地域日本語教育コーディネーター 岡山大学教授 (文化庁地域日本語教育アドバイザー)

有資格者の日本語教師が指導者となることで日本語教育の「質」を確保し、日本語学習サポーターを配置して、地域の生活情報の提供、生きた日本語との接触、地域住民同士の交流を促進することで、日本語教室を「地域住民同士がつながる場」として機能させる

文化庁「地域における日本語教育の在り方について(報告)」より抜粋

82

●生活者としての外国人

【知識】① 地域の外国人の背景・状況・特徴の理解

- ② 背景などに応じて、必要な日本語が異なることを理解
- ③ 学校型と地域型の日本語教育の違いを理解
- ④ 指導者・補助者の役割や連携体制についての理解
- ⑤ 地域の教育リソースを活用

【技能】学習者に応じた指導計画の立案、地域の教育リソースを活用、

- 【態度】① を育てる
- ② を育てる
- ③ 多様な関係者と連携し、日本語教育は生活者としての外国人がことを意識する

83

●児童生徒等

【知識】、多文化状況への理解、子供の言語習得過程 など

- 【技能】① 児童生徒の能力や状況に応じた指導計画の設計
- ② についての力を把握
- ③ 学習者に効果的な教材・教具を作成
- ④ どの統合的な授業

- 【態度】① 多様な関係者と連携し、効果的に日本語学習支援を行おうとする
- ② 多文化家族に寄り添う
- ③ 多様な関係者と連携し、児童生徒の将来設計を想定した日本語学習支援の在り方を考え、実践しようとする など

85

<日本語指導者【中堅】に求められる資質・能力の整理>

【知識】

- ・ や外国人状況に関する知識
- ・ 学習者の能力把握、評価、教育改善に関する専門性
- ・ 教育環境のデザインや に必要な知識

【技能】

- ・ 効果的な教材選択
- ・ 学習者の能力把握と指導、 に必要なスキル

【態度】

- ・ を続け、指導者や学習者と共に学び成長する
- ・ 課題解決への協力的な態度、などを重視

87